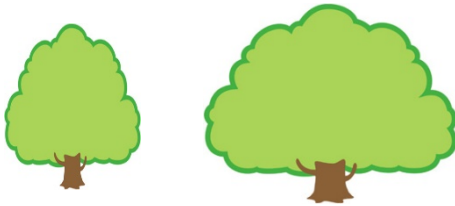


2021年7月吉日 発行

社会福祉法人ぐんぐん 地域で豊かに暮らすために

ぐんぐん便り



社会福祉法人ぐんぐん

理事長 高坂 均

住 所 〒370-3531

高崎市足門町1398番地8

電 話 027-360-6858

FAX 027-360-6859

□ 今泉理事長 退任あいさつ

この度、6月の理事会をもちまして17年間務めさせていただいた理事長を退任いたしましたことを報告させていただきます。

社会福祉法人ぐんぐんを大切に思い、支え続けて下さっている皆様、そして利用者の方々のご家族の皆様にご心から感謝を申し上げます。私がこんなに非力ながら続けられたのは、皆様の「自閉症の人たちが安心して出来るサービス、場所を作っていきたい」という熱い思いがあったからだと思います。

本当にありがとうございました。

皆様が、それぞれの立場からお力を貸して下さり、支援する職員方達の努力と工夫、施設長の方達のリーダーシップにより、通所施設から始まり、療育支援、余暇支援、グループホームへと広がってきたこの社会福祉法人も、高齢者のサポートと就労支援への道を考えつつ、新たな段階に進んでいくことと思います。

新しい理事長は、ぐんぐんの立ち上げの時から理事として参加して下さっている高坂均さんをお願い致しました。高坂さんには、法人が困った時にいつも相談に乗って頂きました。これから法人が発展する上で企業人としての感覚のサポートを期待できることでしょう。

コロナ感染がまだ続いている現在、体調の訴えが儘ならない自閉症の方々の毎日の楽しみも確保しつつ、安全な支援を続ける大変さはいかばかりかと思えます。しかし、今の不自由さの中に新しい道も開けると信じつつ、無理せず、日々の生活をお続けください。今後とも社会福祉法人ぐんぐんをよろしく願います。

令和3年6月 前理事長 今泉千津子

□ 理事長 就任のごあいさつ

ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

このたび、皆様のご推挙により、社会福祉法人ぐんぐんの理事長を仰せつかりました。専門知識や実務の経験もない私が、この任にふさわしいかどうか逡巡しましたが、皆様の応援の言葉を頂き、お引き受けすることになりました。

最初にぐんぐんと関わりが出来たのは、20年ほど前、本業の編集の仕事をしているとき、福祉関係の取材で、中林さんにお話をうかがった時です。とんちんかんな質問にも、丁寧にお話し頂き、無事原稿をまとめることが出来ました。そのご縁からか、2003年の春頃、社会福祉法人ぐんぐんの立ち上げに関わってくれないか、という話があり、理事の一人として協力することになりました。

以後、20年あまり、社会福祉法人ぐんぐんは名前の通り、大きく立派に成長しています。今泉理事長のご指導の下、多くの方々のご尽力、ご支援はもちろん、理事や評議員の健全でバランスのとれたご判断の賜物だと思います。

今後の「ぐんぐん」は、揺れ動く社会情勢の変化や、福祉行政の動向をふまえ、利用者さんやご家族の意向を十分反映していかななくてはなりません。その中で、微力ながら皆様とご一緒に努めていけたらと思います。よろしくご鞭撻の程、お願い致します。

末筆ですが、これまで20年以上にわたり、「ぐんぐん」を大きく支えて下さった今泉先生にお礼を申し上げます。これからもご指導の程、お願い申し上げます。

令和3年7月 高坂均

□令和3年度 社会福祉法人ぐんぐん理事・監事・評議員一覧

理事長	高坂均	評議員	安藝みどり
理事	小山龍也	評議員	井上謙一
理事（新任）	砂賀文昭	評議員（新任）	今泉千津子
理事	中塚美子	評議員	岡本美子
理事	中林文子	評議員	後閑賢二
理事	安田剛治	評議員	関根安子
監事	朝倉力	評議員	松本基志
監事	福田哲夫		

□令和2年度 事業報告並びに計算書類

社会福祉法人は、決算書類を公表する義務があります。インターネットで下記内容を公表しております。もし、直接閲覧したい方がいらっしゃれば法人本部に備え付けておりますので、お越しください。

◎現況報告書 ◎計算書類 ◎定款 ◎役員等名簿 ◎報酬等の支給の基準

「社会福祉法人財務諸表等電子開示システム」で検索してください。

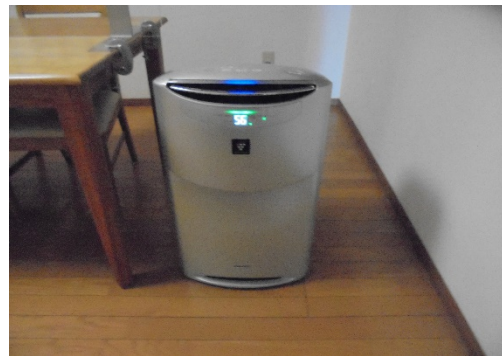
□グループホームでのコロナ対策

コロナ禍になる前、利用者さんはプールに行ったりバスに乗ったりファミレスやラーメン屋で食事をしたりするのを楽しみにホームでも暮らしていました。それが出来ずに寂しい思いをされている方も多いと思いますが、皆さんそれなりに受け入れてくれている様子です。

グループホームでも感染対策として、利用者さんも職員も手指消毒、触れるような所は念入りに次亜塩素酸消毒液で消毒、食事の前にはテーブルを次亜塩素酸消毒液で消毒、食堂テーブルにアクリル板の設置、空気清浄機の設置、食事の順番を変えて一人または二人で食べてもらうようにしています。

どんなに気を付けていても感染してしまう時は感染しますし、あまり対策をしていない人が必ず感染する、というものでもありません。感染対策の出来ることを地道にしていくなかと思っています。

(グループホームプラム所長 砂賀文昭)



□学童クラブぐるりんぱの様子

七夕の季節となり準備がはじまりました。

今年は、どんな願い事を子どもたちは書くのでしょうか。私の1年の楽しみの一つでもあります。

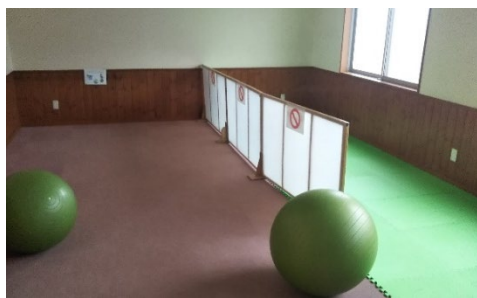
新しい1年生を念頭に、各部屋をわかりやすく伝えるように色で部屋を分ける取り組みをしてみました。

「黄色の部屋で活動しようね」等々カードを手渡してコミュニケーションをとったりして、自立へ向けて取り組んでいます。遊ぶ場のプレイルームも体を使った遊びとバランスボールの場所を分ける試みをしました。境界をわかりやすく丁寧に教える事の大事さを踏まえ、試行錯誤は続きます。



非常口もいかにも、コーンを置いてこれでもかという位に、分かりやすい提示をし、出入りは玄関でねと教えています。育ち盛り子ども達のパワーに圧倒される事もあります。もちろん失敗も多いですが、1勝9敗の精神です。

コミュニケーションや社会でのルールを少しずつ理解してくれた、子どもの力を引き出せたと思ったときに、職員と力を合わせて取り組んで良かったなと思っています。



(ぐるりんば所長 清水 一美)

【あとがき】

人によってはこの1年が長かった、短かったとあるでしょうが、私にとっては途中までは非常に長く感じられました。毎日感染者数を知る事からはじまり、一喜一憂しながらも、煽りのあるニュースに緊張を強いられていた日々。そこで思い切ってニュースを見るのを辞めました。

情報源は、行政のホームページとラジオの事実確認のみ。結果としてこれが良かったようです。

ニュース報道等で不安になったり、緊張感や怒りをもち、心が疲れていく事を「共感疲労」とも言われていますが、その「共感疲労」から脱し、頭が意欲的なものを求めるようになりました。

元々単純な人間です。『そうだ、違う世界に行こう』と思い立ってからは、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」を20年ぶりに改めて読みだし、明治維新の世界へ。この世界は無理！とずっと敬遠していたアニメにも手を付け、楽籠中に見事にどっぷりはまりました。未だに謎は解けません。至福の時間でした。お笑いもまた良い刺激になりましたね。ブルゾンちえみの「35億」は、何回見ても面白かったです。また、コロナ渦で会えていませんが、古希を超えた一人暮らしの親父は、エンゼルスユニホームを着て、毎試合大谷選手を応援してホームランが出るたびに青森にいる叔父

(弟)とLINE電話で喜びを分かち合っているようです。ホームランを打つたびに朝っぱらから満面の笑みの親父や叔父の画像や動画が送られてくるのには毎回苦笑していますが、元気そうで何よりです。釣られて今では私も大谷選手のホームランを夜にYouTubeで確認するのが楽しみになりました。

感情をポジティブに明るく持つことが手指消毒同様に私にとっても特效薬だったようです。

(ぐんぐん 安田 剛治)